

展覧会概要

戦後の復興からまもない1950年代の東京。ようやく人々の暮らしの中に、家具や道具のデザインへの意識が少しずつ広がりはじめる時期に、「国際デザインコミッティー」(現・日本デザインコミッティー)は、戦後日本のデザイン運動の先駆けとして、国際交流やデザインの啓蒙を目的に創立されました。

きっかけは、1953年にイタリアから届いた一通の招待状。この「第10回ミラノ・トリエンナーレ」への参加要請に答えるべく集ったのが、建築家の丹下健三や吉阪隆正、清家清、デザイナーの剣持勇、柳宗理、渡辺力、亀倉雄策、評論家の勝見勝、浜口隆一、瀧口修造、写真家の石元泰博、そして画家の岡本太郎でした。

顧問には、坂倉準三、前川國男、シャルロット・ペリアンが名を連ね、時代をリードする多彩なジャンルの人々が顔を揃えました。

No.1



「グッドデザインコーナー」のための選定会風景、1955年頃
左から、吉阪隆正、鹿子木健日子、剣持勇、渡辺力、瀧口修造、岡本太郎、柳宗理 写真提供：日本デザインコミッティー

No.2



1955年当時の松屋「グッドデザインセクション」売場風景
写真提供：日本デザインコミッティー

「ミラノ・トリエンナーレ」への参加は、次の第11回展(1957年)に実現しますが、むしろ彼らの活動の軸となっていったのは、東京銀座の百貨店「松屋」の一画に設けられた売場に置かれた商品選定と、併設の「デザインギャラリー」や催事場で行われた展覧会を通じたデザインの啓蒙でした。通産省のGマーク「グッドデザイン商品選定制度」(1957年)に先んじて、百貨店という身近な舞台で始められたグッドデザイン運動は、ひろく人々の間に定着し、「日本デザインコミッティー」と改称された現在もお、活発な活動が展開されています。

本展では、「デザインコミッティー」の活動と創立メンバーらの交流に焦点を当てるとともに、そこから生まれたコラボレーションにも注目します。柳宗理《バタフライズツール》や森正洋《G型しょうゆさし》といった時代を代表するプロダクトとの繋がり、そして旧東京都庁舎(1957年)、香川県庁舎(1958年)、世界デザイン会議(1960年)、東京オリンピック(1964年)での協同。彼らが闊達な交流のなかで切り拓いた仕事の広がり、デザイン・建築・美術など多領域を軽々と横断していく自由さは、転換期となる今の時代を突破する糸口になるかもしれません。

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：佐藤(玲)、出口 広報担当：森近(pr@taromuseum.jp)

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枳形 7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966

開催概要

- 展覧会名 「戦後デザイン運動の原点—デザインコミッティーの人々とその軌跡」展
 The Origin of Japanese Design Movement after WWII: The Tracks of Design Committee
- 会場 川崎市岡本太郎美術館 企画展示室
- 会期 2021年10月23日(土)~2022年1月16日(日)
- 開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(1月10日を除く)、11月4日(木)、11月24日(水)、
 12月29日(水)~1月3日(月)、1月11日(火)
- 観覧料 一般1,000円(800円)、高・大学生・65歳以上800円(640円)
 中学生以下 無料/()内は20名以上の団体料金
- 主催 川崎市岡本太郎美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
- 協賛 ライオン、DNP 大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網、天童木工、堀内カラー、東リ
- 特別協力 日本デザインコミッティー
- 協力 松屋、多摩美術大学アートアーカイヴセンター
- 会場構成 フジワラテッペイアーキテクスラボ
- 助成 芸術文化振興基金 
- 同時開催 常設展「生誕110周年 ベラボーナ岡本太郎」 会期10月15日(金)~2022年1月16日(日)
- ※開催期間等、変更になる場合がございます。最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。**

No.3



柳宗理 《バタフライストूल》(初期型)
1956年、柳工業デザイン研究会蔵

No.4



森正洋 《G型しょうゆさし》1958年、
有限会社デザインモリコネクション蔵

No.5



丹下健三計画研究室(制作:神谷宏治+日大川
岸研究室)《香川県庁舎(1958年)模型》
2013年、香川県立ミュージアム蔵

No.6



来日の際に岡本太郎を訪れたヴァルター・グロピウス、1954年
左から岡本太郎、グロピウス、一人おいて剣持勇、柳宗理、渡辺力

No.7



岡本太郎《建設》1956年、川崎市岡本太郎美術館蔵

みどころ

- 通産省の「Gマーク」制度(1957年)にさきがけて始められた、知られざる、戦後日本のデザイン運動の原点ともいべき活動を紐解くもの。
- 日本のミッドセンチュリーを代表するプロダクトデザインと、「デザインコミッティー」との関わりをエピソードとともにご紹介。
- 個性ゆたかな創立メンバーの顔ぶれとその交流に注目し、そこから派生した同時代のデザインや建築の動きのなかで、「デザインコミッティー」が果たした「サロン」としての役割にも注目。
- コミッティーのメンバーが企画を行う「デザインギャラリー」の展示のうち、第1回「わたしの好きなデザイン」展(1964年)と、イサム・ノグチを取り上げた第4回「あかり」展(1964年)、石元泰博の写真展となった第24回「桂」展(1966年)に注目し、部分的な再現展示も行う。

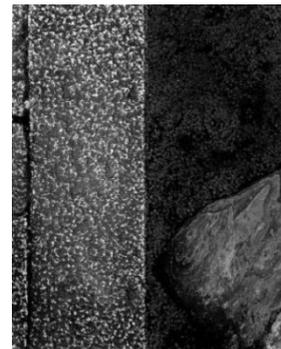
※企画展は一部、写真撮影できるコーナーがございます。

(動画撮影、フラッシュ撮影、三脚・自撮り棒・ジンバル等の器材の使用は不可)

No.8



No.9



展示構成

- 1章 デザインコミッティー創立 ー前夜と交流
- 2章 国際交流とデザインの普及 ーミラノ・トリエンナーレとグッドデザインコーナー
- 3章 サロンとしてのデザインコミッティー
- 4章 デザインギャラリーの展開

主な出品作品

絵画、写真、プロダクトデザイン、家具、建築模型、図面、資料ほか 約220点

その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。<https://www.taromuseum.jp>

※新型コロナウイルス感染拡大対策のため、開催内容が変更となる場合がございます。

詳細は当館ホームページで随時お知らせいたします。川崎市岡本太郎美術館ホームページ <https://www.taromuseum.jp>

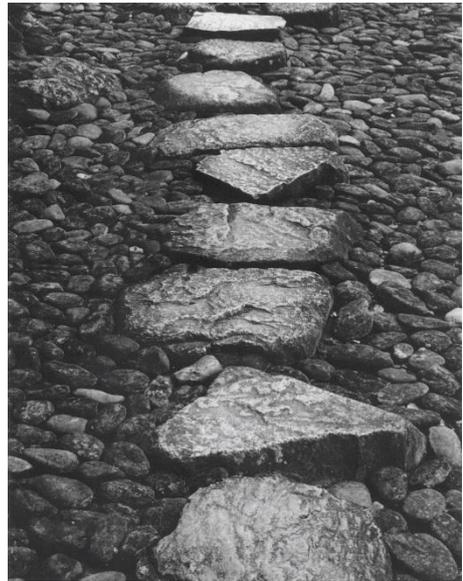
「戦後デザイン運動の原点—デザインコミッティーの人々とその軌跡」展

No.10



「第11回ミラノ・トリエンナーレ」会場風景、1957年、
国立近現代建築資料館蔵

No.11



©Kochi Prefecture, Ishimoto Yasuhiro Photo Center
石元泰博《桂離宮 洲浜の飛石》1953年、高知県立美術館蔵

No.12



坂倉準三建築研究所(担当:長大作)
《低座椅子》1960年、株式会社天童木工蔵

No.13



渡辺力《ヒモイス》1952年、
株式会社メトロポリタンギャラリー蔵

No.14



岡本太郎《坐ることを拒否する椅子》1963年、
川崎市岡本太郎美術館蔵

画像のご使用の際には、必ずキャプション・クレジットをご明記くださいますよう、お願いいたします。

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当:佐藤(玲)、出口 広報担当:森近(pr@taromuseum.jp)

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枡形 7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966

「戦後デザイン運動の原点」会場デザインコンセプト

今回の展示計画を考えていく中で、改めて日本のデザイン運動をつくってきた人たちの熱い想いに触れました。

まず何よりも、デザインの力で新しい社会をつくるんだという強い意思があります。

それゆえに、生み出される家具や道具の形は力強く、シンプルで、今みてもハッとするほど美しいものばかりです。

デザインをつくる上では、批評が欠かせません。様々な専門家が集まった当時の会議録に登場する、歯に衣着せぬ議論の応酬は、まるで演劇の脚本のようであり、時代の力強さ、議論の素晴らしさを感じます。

会議の舞台となったのは、近代日本建築史に名を残す名作住宅ばかりです。まさに日本のデザイン運動のサロンだったのだと思います。

是非、会場にてそれらの住宅の模型の傍らで、会議録を読んでみてください。時代の空気感、サロンの雰囲気は少しはつかめるはずです。

今回の会場デザインは、テーマに沿って順番に鑑賞できるようにしつつも、展示されている家具や道具や写真や言葉や議論の風景が、それぞれ独立した美術品としても鑑賞できるように、海に沢山の島が浮かぶ『多島海』のような平面構成にしています。

公園を散策するようにのんびりと鑑賞して頂けたら嬉しいです。

フジワラテッパイアーキテクツラボ 藤原徹平(建築家)

